

2022年度活動方針

1. 2022年度方針

当事者の方、個人、行政、団体、企業など様々な方々のそれぞれの立場、環境、想いがあることを知って欲しい。その上で、私達自身ができること、すべきことを考えるきっかけとして頂けたらと考えます。

- (1) 2022年度は「**想いを寄せて、未来を一緒に見つめ、進めて行きましょう。一緒に!**」を一つのキーワードに進めて行きます。
- (2) 2022年度も、kfopの「コロナ禍における活動マニュアル(健康管理、フィジカルディスタンス)」に基づき推進して行きます。
- (3) 「知る、伝える」、そして「寄り添い」を継続していきます。
- (4) 役員は2年任期で進めて行きます。

2. 事業計画

事業1(現地活動)

(現地が必要とする復旧復興のニーズに応え、一緒に汗をかく、つながる)
福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために一緒に汗を流し、つながる。

- (1)福島県内での各種活動にボランティアとして参加して一緒に汗を流し、つながる。
- (2)福島県内で開催される交流事業に参加し、一緒に楽しみ、心のつながりを育む。

<方針>

- (1)会員の企画・発案での現地活動もすすめる(企画した方で進める)。
 - (2)個人参加も可としてスタッフ負担の軽減も配慮する。
 - (3)団体活動は事業担当が企画して推進する。
- ①葛尾村の田植え、稲刈り(5月、10月)
 - ②相双ボランティア(申し込みは個人、適宜)

- ③吾妻山麓醸造所（福島市のブドウ畑、適宜）
- ④田村市ホップジャパン（麦栽培、ホップ収穫等、適宜）
- ⑤小高草刈（未調整、適宜）
- ⑥他、会員の企画より（個人参加可）

<形態>

(1)10人乗りワンBOXレンタカーで計画

(2)活動に加えてミニ視察研修など、一泊二日で地元の様子を見ることのできる企画とする

<予算>

372,000円

見込み@57,000円×最大約6回（視察研修時は除く）=3420,000円

冬季スタッドレス費7,000円（10月～3月）×3回=21,000円

参加者負担は@3,000円×各回4人を見込む（除く宿泊費、飲食費等）

予備9,000円

事業2（連携活動）

被災・避難当事者のためのつなぎ手となり、他団体や行政との連携を図る。

(1)神奈川県や周辺自治体、福島県の団体・行政とのつなぎ手として連携する。

(2)被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。

<方針>

(1)会員の企画・発案での活動もすすめる（企画した方で進める）。

(2)団体活動は事業担当が企画して推進する。

(3)活動から10年、当団体メンバーも避難を余儀なくされている方々も10年、活動も変わっていく、寄り添いが大事。

<形態>

(1)各種交流会、情報連携会議に出席する

(2)年4回程計画（詳細は都度）

<予算>

172,000円

@43,000円（現地参加の予算）×約4回 = 172,000円

事業3 (視察研修)

福島県内の地域を訪問して視察研修を実施し、福島の当時・今・これからを伝えていく

- (1)福島の自治体や当事者との信頼関係を醸成したうえで計画、遂行する。
- (2)視察研修の参加者報告をまとめて報告書とし、情報発信に活用する(伝える)。

<方針>

団体として継続して視察研修を実施していく。

実施時期：2022年11月19日(土)～20日(日)で計画(仮置)

<形態>

- (1)実施形態：小型バス、一泊(各自実費)
- (2)視察計画：1Fおよび中間貯蔵施設(未調整)

<予算>

337,000円

一部バス代、調整訪問費用(維持費と折半)等、参加者負担は@20,000円を見込む

事業4 (情報発信)

講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて、福島の現状、生の声を神奈川に伝える。

- (1)福島から講師を招いて講演会や勉強会を企画し、直接お話を聴く機会を設ける。
- (2)総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促す。
- (3)被災地支援や市民活動にかかわるイベント等も活用し広く情報を発信する。

<方針>

- (1)団体として継続して勉強会、講演会を開催していく。
- (2)WEB市民活動フェアは、実行担当が居ることを前提で進める。
- (3)動画作成をWEB市民活動に計上しているが、視察研修便などの記録も活用する。

<形態>

- (1)勉強会：2022年6月18日(土)(総会の日程と別にするかは別途)
- (2)講演会：2023年1月14日(土)
- (3)WEB市民活動フェア2022

講師候補は、会員の提案等により調整していく。

市民活動フェアの担当は矢島さんが継続する。ただし一緒に進めるメンバーは必要。

<予算>

521,000 円

- (1)勉強会：160,000 円（講師招致、事前調整（維持費と折半）、会場費用他）
- (2)講演会：160,000 円（講師招致、事前調整（維持費と折半）、会場費用他）
- (3)WEB 市民活動フェア：1,000 円（参加費）
- (4)動画作成費 100,000 円
- (5)予備 100,000 円

事業5（災害復旧支援）

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。

- (1) 実際の活動については現地の状況に応じて決定する。
- (2) かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行い、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築く。

<方針>

事業計画に同じ

<形態>

特になし

<予算>

100,000 円

※災害発生時の活動では助成金を申請する。

維持管理

福島の民間団体や個人、行政とのつながりの維持を目的として福島訪問を行う。

<方針>

- (1)基本運営事項は維持費計上を含めて継続して進める。
- (2)現地とのつながり維持として、現地訪問を継続する。

<形態>

(1)総会：6月18日

(2)維持管理現地訪問、4回計画

(3)定例会は継続してオンライン（10:00-12:00）で開催する。

<予算>

464,841 円

(1)諸会費：6,200 円

(2)ZOOM 利用：20,000 円

(3)会議費：30,000 円

(4)維持管理現地訪問、4 回計画：175,000 円（45,000 円×4 回）※視察、勉強会、視察の一部折半

(5)印刷、通信費、他等：55,500 円

(6)その他予備：178,141 円

その他

有志活動の「美味しいふくしま」を通して福島食、文化、地域の魅力を伝える。

食べて応援、風評払拭のため、などの大義を掲げて押しつけるのではなく、純粹に美味しさ、楽しさを通じて魅力を感じていただき、日常に取り入れていただけるように情報提供する。

以上

かながわ「福島応援」プロジェクト

代表 渡辺孝彦